《美術史料紹介》

東寺観智院金剛蔵本（建武二年写）『諸説不同記』巻第七（上）
解題・翻刻・校註・影印

津田 徹英、大澤 信、加藤 詩乃、石井 千紘

釈迦院（前半）をめぐる問題

『諸説不同記』は法三宮真寂（八八六～九二七）の撰述になる。それは空海が請来した「現図」胎蔵曼荼羅にあらわれた諸尊の尊容の特徴を一尊ずつ簡潔な筆致で記述したものである。本書が「現図」胎蔵曼荼羅の研究を行う上での現存最古の基本文献であることはいうまでもない。

本書の活字本には、東寺観智院金剛蔵に伝来した建武二年（一三三五）の書写本十帖（以下、建武本）を底本として昭和八年（一九三三）に翻刻したものが『大正新脩大蔵経』図像第一巻に収録されている（以下、大正蔵本）。ところが、この大正蔵本は、大正二年（一九一三）に狩野亨吉氏旧蔵の近世写本（現、東北大学図書館狩野文庫本）を底本にして活字化をみた『大日本仏教全書』本（以下、仏全本）[1]をもって対校し、適宜、字句を改めたため、底本となった建武本はもとより、仏全本とも随所において文言を違えることとなってしまった。しかも、校訂の過程で、どの字句が改められたかについての言及が無いため、『諸説不同記』を用いて「現図」胎蔵曼荼羅の研究を進めてゆくには、改めて建武本を出来る限り原文に忠実に活字化するとともに、大正蔵本との文字・字句等の異同を明確にしておく必要がある。その建武本は全十帖からなり、一度にすべての確認作業を完了することは不可能である。自ずと長期的な展望をもって、地道に、かつ、着実に進めて行くことが望ましい。

今回は、釈迦院について記述した巻第七（一帖）のうち、前半（十五丁表、「如来悲」の途中まで）を翻刻し、あわせて、これに校註を付す。翻刻は、極力、建武本の原文に忠実に行い、校註には、大正蔵本との字句の相違について逐一及び、さらに、以下の二本と文字・字句等の比較検討を行い、異なる場合はその旨を掲げることにした。その二本とは、上述の仏全本と、建武本と同じ再治本系の写本で、鎌倉前期に遡る東寺観智院金剛蔵に伝来した旧「長福寺」[2]架

蔵の零本（以下、建武本と区別して長福寺本と呼ぶ）である。

さて、今回取り上げる釈迦院は、中台八葉院の東（上）方にあって、遍知院と文殊院に挟まれるかたちで南北（左右）に広がるスペースを占有する。中央に位置する東門内の中央に釈迦如来坐像を布置し、南北の上下二段に総数三十八尊が座を占める。各尊の記述においては、それぞれの梵号、密号、種子、三摩耶形を最初に提示し（ただし、一部の尊においては種子、三摩耶形を示さない）、次いで関係の経典類の引用（抄出を含む）がある場合は、これを行ったのち、真言系において胎蔵曼荼羅の規範となった空海請来の「現図」における尊容の特徴を簡潔に記し、あわせて適宜、真言系に伝来した「或図」、天台系の「山図」に及んで、それらとの相違を際立たせようとしている。以下に、釈迦院の前半を翻刻し、校註を付して行く作業の過程で気がついたことを書き留めておく。

引用の典籍類

釈迦院（前半）における典籍類の引用は極めて限定的で、『大日経（大毘盧遮那成仏神変加持経）』と『義釈（毘盧遮那成仏神変加持経義釈）』がその中心をなす。他は、法全撰述の『玄法寺儀軌（大毘盧遮那成仏神変加持経蓮華胎蔵悲生曼荼羅広大成就儀軌供養方便会）』と、典籍名は不詳ながら丹波国水尾玄静[3]の撰述書からの引用（「禅門云」と表記）がそれぞれ一箇所ずつ認められる。前者は「如来悲」の項（行番号217）に、後者は「大転輪仏頂」の項（行番号170）に引用がなされる。これらのなかで留意したいのは、真寂が依拠した『義釈』についてである。これまで幾度となく指摘をしたように引用の字句の特徴から真寂は、円珍将来の十巻本『義釈』と空海請来の二十巻本『疏（大日経疏）』の両方を適宜引用しているが、本巻においても例外でない[4]。しかも、十巻『義釈』と二十巻『疏』双方からの引用は、初校本系の仏全本においても既に認められる。真寂は当初より両本を用い引用を行ったということであろう。ただし引用に当たって、どちらを用いるかの判断の根拠については明確でない。

校異・校訂上の問題

ところで、この観智院本の当該巻において注意を喚起しておきたいのは、本巻には一紙（半折二葉）分の錯簡が一箇所あるうえに、他巻に比べると相対的に字句の誤写・脱落が顕著であることにある。すなわち、錯簡は「釈迦牟尼」の項に存在する（翻刻において破線で枠囲みを施した箇所）。錯簡箇所（一紙〈半折二葉〉分）は「無能勝金剛」の項に紛れ込んでおり、現状の第四葉の表・裏、第五葉の表・裏が相当する。これは伝世の過程で粘葉装が糊離れを起こし、再度、糊付けを行った際に本来あるべきところから移動したとみられる。

一方、字句の誤写・脱落の箇所の詳細については校註に譲るが、ここでは「現図」胎蔵曼荼羅にあらわれた諸尊の記述に関わるところについて述べておく。それは「無能勝妃」、「大転輪仏頂」、「光聚

仏頂」の三尊の記述に認められる。このうち、「無能勝妃」の「現図」の記述において、建武本は「火髪」の「火」の一文字を脱落するとともに、「上歯咬脣」の「脣」の文字を「辰」と表記している。加えて、「竪拳舒上指、當於乳房」の記述を「右手」のことと記すが、直前に「右手」の記述があり、御室版の当該尊の像容を参照するならば、その記述は「左手」のことと推測できる。ちなみに長福寺本および仏全本でも、その記述はともに「左手」のことであると明記している。

「大転輪仏頂」に関して、建武本にあっては「或図」の左手の記述において「中名指」と記すが、長福寺本、仏全本の表記を参考にすれば直前に「屈」の文字を脱落すると解するのが適切であろう。また、「光聚仏頂」の像容に関する記述中にあらわれる「當腰向内執」について、長福寺本、仏全本の記述との比較から、建武本は直前にあった「或図」の文字を脱落するとみられる。

もとより、これらの誤写・脱落の責をすべて建武本に帰してしまうことは適切でない。というのも本巻尾題の後には、建武本の底本となった写本に記し伝えられていた仁安二年（一一六七）五月十八日に行宴が書写した旨の識語があり、その傍らに朱書で「一交了（ママ）」とあるからである（挿図1）。これが朱書で示されることは建武本が書写を終えた後に改めて底本との照合を行い、底本通りに書写がなされたかどうかの確認作業が行なわれた事実を示している。にもかかわらず全体に誤写・脱落が散見されることは、建武本の書写にあたって用いられた底本そのものに既に文字の誤写・脱落があったということであろう。この「一交了（ママ）」の文は大正蔵本では欠落している。これはモノクローム紙焼き写真をもとにしての翻刻であったため、印画紙への焼き付け加減の調整過程で、当該部の写り込み（焼き込み）が十分でなく、翻刻時に見落とされた可能性が高い。

挿図1　第七巻奥書識語

ちなみに、冒頭で述べたように大正蔵本は、その翻刻に際して、建武本を底本としつつ、先行して活字化がなされていた仏全本で字句を対校しているとみられる[5]。しかしながら、初稿本系の仏全本と再治本系の観智院本では字句の増減が顕著であり、対校に困難が伴ったであろうことは想像に難くない。この仏全本が初稿本系であり、観智院本が再治本系であることが明らかになったのは、本翻刻・校訂作業の過程においてであり、大正蔵本への翻刻作業に際して、当時そのことが正しく認識されていたかは定かでないが、その認識がなかったからこそ、建武本を仏全本で校訂するという作業がおこなわれたようにも考えるのである。

ここで両者の字句の増減が実際どの程度に及び、文字だけを追っての異同確認作業が、非常に困難をともなうものであることの一例をあげてみると、顕著な事例は「東門」に関する記述に指摘できる。

すなわち、仏全本にあっては、「東門」の項目中に記された図像情報は割註を含めて十五文字程度に過ぎない（「東門両柱上有黄獣頭(似象頭未詳)」）。ただし見落とせないのは、その記述の大半（四十四文字）を直前の「無能勝妃」の文末に記すことにある（「門上襟(ママ)木中央」以下、「或図青寶」まで）。これは記述の未分化・未整理に起因するようであり、仏全本を初稿本系とみなす所以でもある。ここで再治本系の建武本との字句の異同を示しておくと別掲（表）の通りである。しかし、その記述は文字だけを追う作業では十全に内容把握が行い難く、白描（挿図２）と照合により、はじめて真寂が何を述べようとしていたのか理解が及ぶであろう。

（表）「東門」における再治本系と初稿本系の字句異同

再治本系（観智院本）	初稿本系（仏全本）
現圖、 両柱上有黄獣頭似象頭(現牙齒未詳)、 門上**横木出其口□又以鼻絞木、 頭上有蓮上緑寶珠、或圖赤寶、 此圖其獣鼻上有物似寶體異也、** 横木中央亦有緑色獣頭、 似師子有角、**口含横木、上下牙歯皆現、** 頭**上有蓮々上**青寶、 獣頭左右有獣臂**持横木**、 其手**上蓮々上**赤寶、 或圖青寶、皆有光焔、	両柱上有黄獣頭(似象頭未詳)、 門上 襟(ママ)木中央亦有緑色獣頭、 似師子有角、 頭青色三角寶、 獣頭左右有獣臂、 其手赤色寶珠、 皆有光焔、或圖青寶、

※（ゴチック文字は初稿本にない字句）

真寂の見た「現圖」と御室版との尊容の小異

ところで、この『諸説不同記』を「現図」胎蔵曼荼羅にあらわれた諸尊図像の研究書と認識したうえで注意を喚起しておきたいのは、空海請来の「現図」胎蔵曼荼羅と真寂が認識し、照合作業を行った曼荼羅にあらわれた諸尊の尊容記述と、やはり、空海請来の「現図」胎蔵曼荼羅の第二転写本と認識される高雄曼荼羅の図様を白描で伝えた御室版の諸尊図像を比較検討するとき、尊容うちに小異が散見することにある(6)。そして、この小異が胎蔵曼荼羅のなかで、どの程度及んでいるかを明らかにすることは、『諸説不同記』解読を進めるうえでの課題である。

挿図２　東門

そのことを念頭に置きつつ、当該巻の前半にあらわれた各尊の記述を検討してゆくとき、御室版との小異が認められるのは「無能勝妃」の面部にかかわる記述にある。すなわち、「現図」のそれについて「上歯咬脣」とあるものの、御室版では開口となっている（挿図３）。加えて、御室版では歯牙の描出は一切ない。真寂が「上歯咬脣」と記述することを思えば、真寂が目にした「現図」の「無能勝妃」の面相は閉口であったことが想定される。とすれば御室版が開口で描かれることは、やはり小異と認めざるを得ない。

このほか留意されるのは、「一切如来寶」と「如来毫相」の左手

の持物に関して、いずれも蓮枝を執り、開敷蓮華上に寶珠を載せつつ、真寂は前者を「蓮上三角紺色寶」と、後者を「蓮上緑珠、有光焔」と記している。御室版に目を転じるとき、前者は三箇宝珠（挿図４）であり、後者は一箇宝珠（挿図５）となっている。この三箇宝珠を指して真寂は「三角（紺色）寶」と記したものと判断されよう。その真寂の記述にしたがえば、後者のみ宝珠に「有光焔」と記す。ただし、御室版では前者についても宝珠の周囲には同様の「光焔」の描写が認められる。このことを思うと、これを真寂の記述と御室版の尊容との小異とみるべきか、単純に真寂の記述漏れなのか、判断に迷う。というのも、かの真寂の記述に関して、御室版を参照するとき、「一切如来寶」以下、「無量聲仏頂」までそれぞれにおいては、耳飾の有無や、耳飾の形式（瑞・環）について、それぞれに違いが認められるものの、真寂はそのことに一切言及していない。ただし、後半（次回）の諸尊においては耳飾について言及のあるものも散見し、同じ釈迦院内の諸尊の記述に際して意識に粗密があるようにも思われるからである。

　このほか、「或図」の実態が不明であるため、具体的に尊容の詳細を明らかになし得ないが、「大転輪仏頂」の「或図」において、右手に執る蓮華の上に置かれる金剛杵の形状を「上三股下一股似悞」と表記する（行番号179）ことに注意を喚起しておきたい。「或図」における当該金剛杵の記述は直前に「現図」のそれが独鈷杵であると記されることに対応している。かたち自体については想定が可能であろう。ただし、直後に続く「似悞」についてはいささか難解である。一読すると「或図」の金剛杵のかたちが「悞」というモノに似ると述べたようでもある。しかしながら、「悞」は古字書『類聚名義抄』に拠ると、「誤」の異体字であることが示されるとともに、訓みは「アヤマル」とう動詞しか確認できない[7]。そこで密教聖教にあらわれた「似誤」の用例を求めてみるとき、『大正新脩大蔵経』に収録された延久三年（一〇七一）書写の東寺宝菩提院三密蔵本を底本とする『大仏頂如来放光悉怛多般怛羅大神力都摂一切呪王陀羅

挿図３　無能勝妃（部分）

挿図４　一切如来寶（部分）

挿図５　如来毫相（部分）

尼経大威徳最勝金輪三昧呪品』の奥書識語のなかに「此書似誤、多以他本可校之」という表記があり、(8)ほかに、覚超（九六〇～一〇三四）撰『三密抄料簡』の本文中に「互有少異者、或似異説、或似誤耳」という用例が知られる。(9)これらを勘案するとき、本文中にあらわれた「似悞」も、限りなく誤りに近いという意味で用いられたと考えておきたい。

（津田徹英　記）

註

（1）仏全本についての詳細は、津田徹英、大澤信、栗原麻耶美「〈美術史料紹介〉東寺観智院金剛蔵本（建武二年写）『諸説不同記』巻二（上）翻刻・校註・影印」（『史友』四二号、青山学院大学史学会、二〇一〇年）の「附大日本仏教全書本と東北大学図書館狩野文庫本」を参照されたい。

（2）長福寺本は、巻第四、五、七、八、九の五帖のみを伝える残巻であり、各帖ともに表紙裏に擦り消した縦長の二重郭墨印が確認でき、かろうじて巻八の印章により旧蔵が「長福寺」であったと判読が可能である。この長福寺本についての詳細は、津田徹英、岡田麻未、竹内沙織「〈美術史料紹介〉東寺観智院金剛蔵（建武二年写）『諸説不同記』巻第四（上）翻刻・校註・影印」解題（津田執筆）『史友』四〇号（青山学院大学史学会、二〇〇八年）五四頁を参照されたい。

（3）玄静については、津田徹英、淺沼桂子、高橋かおり、東條由紀、原浩史「〈美術史料紹介〉東寺観智院金剛蔵（建武二年写）『諸説不同記』巻第三・蓮華部院（上）翻刻・校註・影印」解題（津田執筆）『史友』三八号（青山学院大学史学会、二〇〇六年）六〇～六一頁を参照されたい。

（4）引用語彙にあって円珍請来本系の十巻『義釈』の文言（依拠した『続天台宗全書』の表記にしたがえば、㋑本に相当する）の特徴を明確に示し得るものについては、本翻刻校註19、39、80、98、127、227を参照されたい。一方、引用語彙にあって空海請来本系の二十巻『疏』の文言（㋺本に相当）の特徴を示すものについては、本翻刻校註16、17、26を参照されたい。

（5）註1参照。

（6）津田徹英「『諸説不同記』と「現図」胎蔵曼荼羅」東京文化財研究所編『オリジナルの行方―文化財を伝えるために』（平凡社、二〇一〇年）一四六～一五二頁。

（7）正宗敦夫校訂『類聚名義抄（日本古典文庫）』法中八三。

（8）『大正新脩大蔵経』19―一八八ｃ。宝菩提院三密蔵本における当該の字句は、延久三年十二月十日に書写した旨を記す識語の傍らに、朱書をもって「□□三年十二月校了」の一文とともに記されるものである。年記の部分が不詳ながら、それが校了記事のなかであらわれることを思えば、この校了の識語も書写年次と同年同月のことであった可能性が高い。

（9）『大正新脩大蔵経』75―六四七ｃ。

〔付記〕本稿は平成二十六年度青山学院大学大学院文学研究科比較芸術学専攻の履修科目「日本・東洋美術史研究Ⅰ、Ⅱ」を受講した本学大学院生とともに輪読した成果である。本書の原本閲覧時には東寺当局のご高配を得た。ここに記して改めて謝意を表す次第であります。

胎蔵曼荼羅　釈迦院　諸尊異同一覧

尊　名	部　位	現　図	或　図	山　図
釈迦牟尼一	身　色	金色、		
	面　相	佛形、具有肉髻等相、		
	右　手	當心側竪掌、屈中无名指、	側竪掌、大指頭指相捻小指少開、	大指中指相捻、
	左　手	當心竪掌向身、屈中名指、	舒掌向身、屈中名指、其頭小指少屈、	
	着　衣	被著赤色・淺緑裏袈裟、袒右肩、	肩上少覆、	
	坐　法	結跏趺坐、		
	台　座	蓮上、	寶蓮花座之下有花臺、花臺下有一層平敷花、	
虚空蔵菩薩二	体　勢	面少向左、	正向、	
	右　手	竪掌、屈頭中指、執白拂、	四指屈持之（＝白拂）、	
	左　手	覆拳當臍、持蓮上緑珠、	竪掌、屈頭中指、執蓮上赤珠、	
	着　衣	被天衣、		
	光　背	「唯有円光、无身光」※01、		
	台　座	立一層平敷蓮花座、		
観自在菩薩三	面　相		目少怒視、	
	体　勢	面少向右、	側右、	
	右　手	向内、執白拂、	（執）赤拂、	
	左　手	拳叉腰、		持含蓮、
	着　衣	被天衣、		
	装身具		无冠繒※02、	
	光　背	「唯有円光、无身光」※01、		
	台　座	「立一層平敷蓮花座」※03、		
無能勝明王四	身　色	青色、	肉色※04、	赤色、
	頭　髪	火髪、左右面頂上面著金線冠、四面无冠繒、		
	面　相	四面、正面及左右面三目、	三面无額目※04、	四面、
	体　勢	面向右方、右膝屈・左足舒、		
	右一手	竪拳舒頭指、當心、	改拳、舒掌反向内、	持獨胡、
	同二手	擧臂拳仰、舒頭指反向上、	竪拳當妳※05、	竪（拳）、
	左一手	向内持鋒、		（持）三古戟、
	同二手	下垂開肘、拳向左、持三胡戟、	（持三胡戟）著繒、	（持）戟、
	着　衣	衣端颺背、裙亦飄後、		
	装身具	著足環、	无（足環）、	
	光　背	「唯有円光、无身光」※01、		
	台　座	各舒足下有蓮花、		
無能勝妃五	身　色	青色、	赤肉色、	赤色、
	頭　髪	火髪聳竪※06、金線、緑髪、无冠繒、	髪冠如常※08、	
	面　相	面有三目、上齒咬脣※07、	蹴眉嗔目其口如常※08、	
	体　勢	身及面少仰膽、左足屈・右足舒、		
	右　手	太舒上臂、竪拳向右、舒竪頭指、	擧臂竪拳掌向右、	竪掌屈无名小指向右、
	左　手	竪拳舒上頭指、當於乳房※09、		持獨胡當胸、
	着　衣	披著天衣、其肩上及二端飄上在背、不著衣、裙子亦飄、		
	装身具	著足環、		
	光　背	唯有円光、无身光、		
	台　座	各（足）立蓮上、		

尊　名	部　位	現　図	或　図	山　図
東門	両　柱	上有黄獣頭、似象頭現、牙歯未詳、		
	門上横木	出其（黄獣頭）口、□又以鼻絞木、頭上有蓮上緑寶珠、横木中央亦有緑色獣頭、似師子有角、口含横木、上下牙歯皆現、頭上有蓮々上青寶、獣頭左右有臂持横木、其手上蓮々上赤寶、皆有光焔、	（頭上有蓮上）赤寶、其獣鼻上有物似寶體異也※02、（横木中央亦有緑色獣頭…獣頭左右有臂持横木､其手上蓮々上）青寶（皆有光焔）、	
一切如来寶六	身　色	遍身金色、		
	体　勢	面向左方、微仰視、		
	右手	竪掌、屈中名指、少屈小指、	屈中名小指、	屈頭中指、
	左手	當心竪拳、執蓮上三角紺色寶、	竪申頭指、執蓮上青珠、皆有光焔、	
如来毫相七	身　色	其身金色、		
	体　勢	面向左方、少下視、	頭少側左、	
	右　手	申掌大指少屈、仰置臍下、		
	左　手	覆掌、屈其頭指、少屈中名、執蓮上緑珠、有光焔、	覆舒掌、執蓮上青珠、有光、	（執）蓮上光焔、
	装身具	頸繋青珠、		
	台　座	坐黄蓮花※10、		
大轉輪仏頂八	身　色	皆金色、		
	面　相	菩薩形、		
	体　勢	面向左方、		
	右　手	竪掌屈頭中无名指､執蓮上竪獨肮杵、	上三股下一股、	
	左　手	側竪於掌、屈中无名小指、	屈中名指※11、	屈中指、
光聚仏頂九	身　色	「皆金色」※12、		
	面　相	「菩薩形」※12、		
	右　手	少側竪掌、屈名小指、	屈中名指、	屈頭指、
	左　手	垂下拳當腰側、執蓮上肉髻、	當腰向内執※13、	執蓮、
	台　座	坐黄蓮也、		
无量聲仏頂十	身　色	「皆金色」※12、		
	面　相	「菩薩形」※12、		肉色、
	右　手	竪掌、屈頭中指、少指少開、	屈中无名指※14、	同屈中无名指※14、
	左　手	垂下拳當腰側､持蓮上竪商佉口在下、其蓮太敷※15、	（其蓮）如常、	

※01无能勝妃の項に「下四尊唯有円光、无身光」とあり、御室版を勘案し、関係尊に項目を立て「　」を付して割り振った。

※02原文の「此図」は直前の「或図」を指すと解した。

※03虚空蔵菩薩の項に「立一層平敷蓮花座」に続いて「下尊同此座」とあり、御室版を勘案し、これを観自在菩薩のことと解し、項目を立て「　」を付して割り振った。

※04原文は観智院本、仏全本、長福寺本ともに「或三面无額目、肉色」と表記するが､「或図」のことと解した。

※05当該の「或図」の記述は前後の文脈から右二手のことと判断した。

※06観智院本は「火髪」の「火」の文字を脱落。仏全本・長福寺本の表記と御室版を勘案し「火髪」に改訂。

※07観智院本は「辰」と誤記。仏全本・長福寺本の表記と御室版を勘案し「脣」に改訂。

※08原文に「髪冠蹴眉嗔目其口如常」とあることを関係項目に割り振った。

※09観智院本は「右手」と誤記。仏全本・長福寺本の表記と御室版を勘案し「左手」に改訂。

※10現図の記述と解されるが、御室版の当該尊に付された註記には「坐赤蓮花」とあることと齟齬する。

※11観智院本は「屈」の文字を脱落。仏全本・長福寺本の表記に従い改訂。

※12大転輪仏頂の項に「已上三佛頂皆金色菩薩形也」とあり、御室版を勘案し、関係尊に項目を立て「　」を付して割り振った。

※13観智院本は「或図」の文字を脱落。長福寺本は「或図」を明記。前後の文を勘案し「或図」の記述と判断した。

※14原文に「二図同…」とあることを「或図」と「山図」の記述と解して、関係項目に割り振った。

※15観智院本は「大敷」と表記する。意味を考慮し長福寺本の表記に従い「太敷」と改訂。

『諸説不同記』巻第七（前半）翻刻・校註・影印

《凡例》

以下に東寺観智院金剛蔵本『諸説不同記』（特一四箱一八号）巻第七（一帖）の前半（十五丁表、「如来悲」の途中まで）の翻刻を行う。翻刻にあたって次の点を配慮した。

一、本文の行取り・使用漢字は出来る限り原本通りとした。ただし、文字数が多く一行で収まらない場合は、無理をせず次行に折り返した。底本では、それぞれの尊名、梵号、密号、三摩耶形の書き出しの位置が一定しておらず、翻刻に際しては尊号の書き出しの位置を本文の書き出しと同じ高さに揃え、梵号、密号、三摩耶形の書き出しは、それぞれ一字下げに統一するように配慮した。

二、この第七巻には錯簡が存在する。影印版では現状のまま掲載するが、翻刻本文においては錯簡部を正し、その部分を破線で囲み示した。

三、底本において使用された異体字のうち、正字に改めたものは、これまで通りである（『史友』四四号七二頁参照）。

四、翻刻した本文各行の下には通し番号を付した。この番号はそのまま行番号を兼ねるとともに、後掲の校訂註（校註）の番号とも対応する。なお、当該行に註記等の必要がない場合は空欄のままとした。

五、本文中の誤字・脱字、および、伝世の過程で付されたとみられる訂正・書き込みのすべてについて、翻刻した本文中には示さず、後掲の当該行校註において【書き込み】を明示して記した。

六、『諸説不同記』諸本との対校により誤字・誤写・脱字が明らかな場合においても原本のままとし、当該校註においてその旨を示した。また、文字や字句が諸本と異なる場合も、校註においてその旨を示した。対校に用いた『諸説不同記』諸本と略称は以下の通りである。

・大正蔵　『大正新脩大蔵経』図像第一巻所収本（この東寺観智院金剛蔵本を底本とし、『大日本仏教全書』本によって適宜対校し、一九三三年に刊行）。

・仏全本　『大日本仏教全書』所収本（東北大学図書館狩野文庫本を底本として、一九一三年に刊行）。

・長福寺本　東寺観智院金剛蔵本『諸説不同記』第七（四〇箱第七号、院政期～鎌倉初期写）。

七、本文中にあらわれた難読文字については、古字書『類聚名義抄』の字訓を当該行校註に〔補足〕として掲げた。使用した『類聚名義抄』は、正宗敦夫校訂『日本古典文庫』五巻本（同刊行会、一九三八年）に拠った。

八、頁ごとに「」を附して頁数を示すとともに、表はオ、裏はウと表記した。

九、本文中、各尊の冒頭にある白描の三摩耶形（図）は版組の都合上、翻刻文の後に一括して掲げた。

十、原本との照合が可能なように翻刻・校註のあとに影印（モノクロ写真図版）を掲げた。

十一、大正蔵本ならびに仏全本は、旧字体での表記を原則としており、それらの使用文字の違いも校註の対象とした。ただし、以下の文字については翻刻に際しての煩雑を避けるため、その異同については明示しなかった。

教　務　尊　専　虚　飾　悦　鋭　説　兼　益　平
半　起　歩　節　即　増　層　通　迦　遍　遮　連
蓮　毘　算　尚　黒　黄　横　青　請　清　情　静
状　将　荘　猶　害　強　弱　習　悩　忍　普　隠
福　神　祖　視　祥　練　縁　緑　絶　豊　悪　亜
秘　徳　瓦　熙　浮　誤　廻　座　雑　者　挿　并

観智院　（註01）

胎蔵漫荼羅諸説不同記第七　（註02）

釋迦壇第十 現圖在文殊院与内院中間　」（表　紙）（註03）

大悲胎蔵普通大曼荼羅中諸尊種子標幟形相聖位　」（表紙裏）（註04）

諸説不同記巻第七　（註05）

第三重釋迦壇第十　（註06）

釋迦牟尼一　（註07）

梵号  　密号 寂静金剛　（註08）

種子  婆 一切有不可得故　（註09）

三摩耶形 鉢　〔図〕　（註10）

秘蜜品云、　（註11）

」（1オ）

復次應諦聽、釋迦師子壇、諸大因陀羅、妙善真金色、　（註12）

四方相均等、如前金剛印、上現波頭摩、周遍皆黄暉、　（註13）

大鉢具光燄、金剛印圍繞、袈裟錫杖等、置之如次第、　（註14）

釋云、次作釋師子漫荼羅 即釋迦也諦聽佛子也 當作金剛四方令普　（註15）

此金剛即是如上所説五輪中金剛方壇也普者正四方之稱也 其壇黄色、極令鮮好、　（註16）

於中畫金剛杵 三股 杵上安蓮花々々黄色、花上置鉢々四邊　（註17）

通有光々、若作佛形者當畫釋迦佛持鉢以金剛繞之、　（註18）

右邊置袈裟即僧伽梨、右邊置錫杖也、具縁品云、　（註19）

」（1ウ）

次往第二院、東方初門中、畫釋迦牟尼、圍繞紫金色　（註20）

具三十二相、被服袈裟衣、坐白蓮花臺、為令教流布、　（註21）

住彼而説法、　（註22）

釋云、次往第二院畫釋迦牟尼、阿闍梨言此中第二是　（註23）

隠密語耳、若従中向外當以釋迦牟尼眷属為第三院、　（註24）

今則以毘盧遮那法門眷属為第一釋迦牟尼眷属　（註25）

為第三、諸菩薩在悲智之間上求下化、故為第二所以　（註26）

如此互文者此者是如来密蔵、為防諸慢法人不従師受者　（註27）
」（現状4オ）
變乱経文、須口傳相付也、於東方初門先置釋迦牟尼　（註28）
身真金色并具光輝卅二相、所被袈裟作乾陀色、坐白蓮　（註29）
花、作説法之状、謂以左手執袈裟角如今之阿育王像、　（註30）
右手竪指以空水輪相持、是其標幟也、此白蓮花即是　（註31）
中台浄法界蔵世尊為令此教廣流布、故此生身標幟　（註32）
而演説之、然与本法界身无二无別、故云彼而説法也、　（註33）
轉字品云、次當出外於第二分、畫釋迦牟尼王被袈裟　（註34）
卅二導師相、為説最勝教施一切衆生无畏故、或袈裟　（註35）
」（現状4ウ）
鉢印、或以字句所謂波字、　（註36）
釋云、次出外第三院畫牟尼王釋迦種姓、著袈裟衣、　（註37）
具足卅二相、是一切衆生施无畏者（以教法利益一切、皆令得无畏也）　（註38）
其印當置鉢袈裟等（謂錫杖之類也）若字者作𑖪字、此　（註39）
最為勝者謂秘蜜勝上義也、　（註40）
蔵品云、時釋迦牟尼世尊入於寶處三昧、説自心及　（註41）
眷属真言、釋云、由此三昧故如来出現于世以如来出　（註42）
出現故、則有无量无邊五乘法寶悉皆出現、猶如輪王　（註43）
」（現状5オ）
正位時、世間種々伏蔵自然開發、又如諸寶山无所不　（註44）
有随諸衆生有信手者則能自恣之取、法花經化　（註45）
城喩品此中當廣説、　（註46）
所傳圖釋迦并眷属皆在第三重天部中、現圖在　（註47）
第二重下院東門之中、金色佛形具有肉髻等相、　（註48）
被著赤色淺緑裏袈裟袒右肩、或圖肩上少覆、　（註49）
右手當心側竪掌屈中无名指、或圖側竪掌大　（註50）
指頭指相捻小指少開、山圖大指中指相捻、左手亦　（註51）
」（現状5ウ）
當心竪掌向身屈中名指、或圖舒掌向身屈中名　（註52）
指、其頭小指少屈、結跏趺坐蓮上、或圖寶蓮花座之　（註53）
下有花臺々々下有一層平敷花、　（註54）
虚空蔵菩薩二　（註55）
梵号 𑖪𑖽𑖨𑖿𑖪𑖽 蜜号 无盡金剛 種子𑖨𑖿伊引　（註56）
災禍不可得故 三摩耶形 蓮上緑珠圖〔図〕　（註57）
現圖在釋迦右之外、右手竪掌屈頭中指執白拂　（註58）
或圖四指屈持之、左手覆拳當臍持蓮上緑珠、　（註59）
」（2オ）
或圖竪掌屈頭中指執蓮上赤珠、被天衣、立一層平　（註60）
敷蓮花座、下尊同此座、面少向左、或圖正向、　（註61）
観自菩薩三　（註62）
梵号 𑖪𑖽𑖨𑖿𑖪𑖽𑖨𑖿𑖪𑖽 密号 清浄金剛　（註63）
種子 𑖪娑通 諦不可得故 三摩耶形 未敷蓮〔図〕　（註64）
現圖在釋迦左之外、右手向内執白拂、　（註65）
或圖赤拂、左拳叉腰、山圖持含蓮、被天衣、面少向　（註66）
右、或圖側右目少怒視、此圖无冠繒、　（註67）
」（2ウ）
無能勝金剛四　（註68）
梵号 𑖪𑖽𑖨𑖿𑖪𑖽𑖨𑖿𑖪𑖽 密号 勝妙金剛 種子　（註69）
地陵 或𑖪吽 三摩耶形 黒蓮上大口〔図〕　（註70）
秘密品云、　（註71）
无能勝大口、而在黒蓮上、釋云、无能勝王作口印在黒蓮　（註72）
之上、謂畫作忿怒口、其口雙牙上出者是也、此等諸佛　（註73）
位若以釋迦為中則佛頂等列居次院、若随一々本　（註74）
尊中取一為漫荼羅主、即移釋迦在外餘皆可例解耳、　（註75）
」（3オ）
具縁品云、佛子次應作、持明大忿怒、右号无能勝、左无　（註76）
能勝妃、釋云、釋迦牟尼座下應作忿怒持明、右邊号　（註77）
无能勝左邊号无能勝明妃、並白色持刀印貌佛而坐　（註78）
其間、蔵品釋云、又无能勝真言是釋迦眷属中忿　（註79）
怒明王无能勝是不可破壞義、謂於一切世界種々　（註80）
随類法門中遍摧諸障調伏衆生、　（註81）
現圖在釋迦前左邊、青色、火髪、四面四臂、正面及　（註82）
左右面三目、左右面頂上面著金線冠、四面无冠繒、　（註83）
」（3ウ）
或三面无額目、肉色、右手竪拳舒頭指當心、次手擧　（註84）
臂拳仰舒頭指反向上、或圖改拳舒掌反向内、或　（註85）
圖竪拳當妳、左手向内持鉾、次手下垂開肘拳向、　（註86）
左持三胎戟、或圖著繒、面向右方、右膝屈左足舒、　（註87）
各舒足下有蓮花、衣端颺背裙亦飄後、山圖赤　（註88）
色、四面四臂右持獨胎次竪、左三古戟、次手亦戟、著　（註89）
足環、或圖无、　（註90）
无能勝妃五　（註91）
」（6オ）
梵号 𑖪𑖽𑖨𑖿𑖪𑖽𑖨𑖿𑖪𑖽𑖨𑖿

已上門内、

東門

現圖兩柱上有黃獸頭（似象頭現牙齒未詳）門上橫木出其口

□又以鼻絞木頭上有蓮上緑寶珠、或圖赤寶、此圖其

獸鼻上有物似寶體異也、横木中央亦有緑色獸頭、

似師子有角口含横木上下牙齒皆現、頭上有蓮々上青寶

獸頭左右有臂持横木、其手上蓮々上赤寶、或圖青寶」（7ウ）

皆有光焔、

一切如来寶六

梵号 

密号 實相金剛 種子  多 如々不可得故

三摩耶形 佛頂眼 〔図〕

私云、是為能寂母、按具緣品云次於世尊右顯示遍智眼、

又云、復於彼尊右、圖寫毫相（云々、意云、釋迦右遍智

眼遍智眼右毫相明、今撿圖位、釋迦右如来寶如来」（8オ）

寶右毫相、故云如来寶即當遍智眼位也、現圖尊

持普通寶珠印、故随所持之標幟得名、釋云、一切諸佛

菩薩真陀摩尼印、阿闍梨言此是通一切印、若諸佛菩薩

經中不言所持印相者、執此无價寶珠皆得（云々、故知寶

珠一切諸佛菩薩之通印也、又解云、天竺曼荼羅此尊

持佛頂印、傳圖者訛畫於寶珠、復題名者覩所持之

物名如来寶此二解中初解勝也、具緣品云、

次於世尊右、顯亦遍知眼、熙怡相微咲、遍體円浄光、」（8ウ）

喜見无此身、是名能寂母、

釋云、次於世尊北邊安置佛眼、亦是釋迦牟尼佛母、此方

釋為能寂母也、當作世間樂見端嚴无此之身、通身

皆有円光喜悦微咲、此是如来出生随類形三昧正以

大慈普眼為躰覩蜜應度衆生而導利之慈眼之

光无所不遍、故云、遍體円浄光也、秘密品云、

佛眼次當聽、頂髻遍黄色、圍以抜折羅、

釋云、佛眼當作佛頂髻形、兩邊置眼其頂黄色以金」（9オ）

剛圍之、

現圖在東門北釋迦右方、遍身金色、右手竪掌屈

中名指少屈小指、或圖屈中名小指、山圖屈頭中指、左

手當心竪拳執蓮上三角紺色寶、或圖竪申頭指

執蓮上青珠、皆有光焔、面向左方微仰視、

如来毫相七

梵号  密号 妙用金剛

種子  多（初 如々不可得故」（9ウ）

三摩耶形 寶珠 〔図〕

具緣品云、

復於彼尊右、圖寫毫相明、住鉢頭摩華、円照商佉色、

執持如意寶、滿足衆希願、暉光大精進、

釋云、次於佛母之北、畫如来白毫相印、住蓮花中作商

佉、色身有円光、手執蓮花如半數之状、内如意寶珠、此

是如来无邊福業之所集成、如覩佛三昧等經廣説、故

能滿足一切衆願也、秘密品云、毫相摩尼珠、」（10オ）

釋云、佛毫相用如意珠為印、此名印漫荼羅、此印

法灌頂成就物等用也、其息災等則随形色轉變

非此所用也、成就皆以本尊在中覩色類、謂白黄亦等也、

蔵品釋云、是如来无量功徳之所集成、即寶所

成即寶所三昧中一種滿願如意珠也、

現圖在於一切如来寶右、其身金色、右手申掌

大指少屈仰置臍下、左手覆掌屈其頭指少

屈中名執蓮上緑珠有光焔、或圖覆舒掌」（10ウ）

執蓮上青珠有光、山圖蓮上光焔、頚繋青珠、面

向左方少下視、或圖頭少側左、坐黄蓮花、

大轉輪佛頂八

梵号 

密号 破魔金剛 種子  吒嚕吽（三合

三摩耶形 五股 〔図〕

禅門云、口決廣大發生佛頂、私云、為廣生佛頂亦名廣大、

具緣品云、於毫相之右復畫三佛頂、初名廣大頂、釋云、」（11オ）

此天次南毫相之右、復畫三佛頂、第一名廣大佛頂、

私按彼品説五浄居、次説三佛頂、故云此天次云々又廣

大佛頂即當秘蜜品廣生位、彼云、廣生抜折羅、釋

云、會通大佛頂以金剛為印、密印品釋云、廣生佛印

如前五股金剛印也、私案結闕印、所傳圖釋迦

南如来錫杖左有四佛頂勝火聚廣大无量音聲也、

現圖在毫相右々手竪掌屈頭中无名指、執蓮上

竪獨朏杵、或圖上三股下一股似悞、左手側竪於掌」（11ウ）

屈中无名小指、或圖中名指、山圖屈中指、面向左方、已上

三佛頂皆金色菩薩形也、

光聚佛頂九

梵号

密号 神通金剛 種子 怛陵（二合

三摩耶形 佛頂髻 〔図〕

具緣品云、衆德光聚、云第四帝殊羅施譯云火聚頂、

経云、衆德者正譯當云大分、是具大德義也、私案五佛頂」（12オ）

第四佛頂也、秘密品云、大士頂髻相、是名火聚印、釋

云、火聚佛頂畫佛頂髻形（大士者号、金剛也）、現圖在大轉輪

之右々手少側竪掌屈名小指、或圖屈中名指、山圖屈

頭指、左手垂下拳當腰側執蓮上肉髻、當腰向内

執、山圖執蓮、坐黄蓮也、

无量聲佛頂十
梵号 
密号 妙響金剛　種子  吽
三摩耶形 蓮上商佉　〔図〕」（14ウ）

具縁品云、
及无量音聲、皆應善安立、五種如来頂、白黄真金色、
復次三佛頂、白黄赤兼備、其光普深廣、衆瓔珞荘嚴、
所發弘誓力、一切願皆滿、
釋云、第三名无邊音聲佛頂、其形相皆同五頂、是如
來三部衆徳之頂也、其五種如来頂有五種色所謂
真金色欝金色浅黄色極白色浅白色、是中真金
」（13オ）

欝金二色相似、然真金光浄欝金色稍重也、三佛頂
則三色、謂白色黄色赤色、此是兼具寂災増益降伏
色、此八種佛頂皆周身有光々極廣厚以諸瓔珞嚴身
由如来本誓願力、故悉能滿足一切願也、私云无量聲
在八佛頂最後説、故惣結句在此佛頂末文、秘密品云、
无量聲商佉、覩察和像類、釋云、无量音佛頂以珂貝
色類應觀知謂如前説、現圖在光聚右々手竪掌
屈頭中指、少指少開（謂商佉也）（二圖同居中无名指）、左手垂下拳當腰側持
」（13ウ）

蓮上竪商佉口在下、其蓮大敷、或圖如常、山圖肉色、
如来悲（十一）
梵号 
密号 慈化金剛　種子  迦（初）　離作業故
三摩耶形 合掌（圖）　〔図〕

私云、已下三尊経釈不説其名、玄法寺儀軌列之、今案四
无量尊及如来愍、恐是五浄居天歟、経釈諸軌皆浄居
印明而圖闕位、今此等五尊未見所出、又當浄居位故云尓
」（14オ）

何者具縁品説五浄居竟、次云此天次南三佛頂（云々）、又釈云
是第二院所攝等（云々）、具縁品云、
次於其北方、布列五浄居、自在与普花、光鬘及意生、
名稱遠聞等、各如其次第、
釋云、次於東方最近北邊布邊布列五浄居衆第一自在天子
第二普花天子、第三光鬘天子、第四意生天子、第五稱
遠聞天子、當次第列之、其印相具如圖説、阿闍梨言此是
五那含天子耳、過此以已有菩薩受佛職位處、亦名浄
」（14ウ）

居天、多是一生補處菩薩、是第二院攝非此中所明也、
秘密品云、
浄境界之行、所謂五浄居、置彼諸印明、佛子應諦聴、
所謂思惟手、善手及笑手、花手虚空手、畫之如法則、
釈云、次説浄居天印、經云浄境界行者謂以禅定為味以
浄為行耳、其印今次列之、思惟手（謂稍屈地水指向掌、餘三指散舒如三奇杖稍）、善手（妙好義、謂手施无畏皆用左手、右以得也、妙好義也）、笑手（謂遍思惟手當心前令奇、）、花手（以風空捻花而申三指、其三指、或仰掌舒之、或竪舒皆得也）、虚空手（謂側右手向上）
」（15オ）

校註

(01)「観智院」は本文と別筆。

(02)「胎蔵漫荼羅諸説不同記第七」は本文と別筆。現状の柿渋貼紙の下に存在するもと表紙の左上隅には外題「諸説不同記第七」をとどめる。ただし本文と同筆とみなし得るかは慎重にならざるを得ない。ちなみに長福寺本の外題（貼紙）では「大悲胎蔵普通大曼荼羅記第七」と別筆で表記。

(03)「釋迦壇第十（現圖在文殊院与内院中間）」は本文と別筆。大正蔵本では「（表紙裏曰）釋迦壇第十（現圖在文殊院與内院中間）」と翻刻する。長福寺本には、観智院本（前掲）あるいは仏全本（次掲）のような記載は一切存在しない。仏全本には次の記載がある。

供養雲海
智拘絺羅
憂波利
迦栴延
阿難陀
拘絺羅
寶輻辟支佛
輪輻辟支佛
三十一 如來牙
三觀自在　四无能勝
釋迦
二虚空藏　五无能妃
十四 如來礫乞底
栴檀香辟支佛
多摩羅辟支佛
大目犍連
須菩提
迦葉
舍利弗
如來喜
廿二 如來捨
三十 如来咲
如來舌
如來語
摧碎佛頂（除障也）
高佛頂　發生也
最勝佛頂
勝佛頂
廿三 白傘蓋佛頂
六 一切如來寶
如来毫相
大轉輪佛頂　廣生也
光聚佛頂
无邊ヶ量聲佛頂
如來悲
如來敏
十三 如來慈
已上一本（三無ン）

(04)蔵→「藏」大正蔵、仏全本。

(05)

(06)

(07)

(08)号→「號」大正蔵、仏全本。
 →「  」大正蔵、仏全本。
 →「  」大正蔵、仏全本、「」長福寺本。

(09)静→「靜」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(10)婆→「（ナシ）」仏全本。
一切有不可得故→「一切有不可得故」仏全本。

(11)秘密品云、復次應諦聴～置之如次第（行番号14）→『大日経』巻第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18―三四c～三五a）。
秘蜜品云→「秘密品云」大正蔵、長福寺本、「秘密品頌曰」仏全本。

(12)聴→「聽」大正蔵、仏全本。
諸→「謂」仏全本。〔参考〕「謂」『大日経』（『大正蔵』18―三四c）。

(13)真→「眞」大正蔵、仏全本。

(註193)(註194)(註195)(註196)(註197)(註198)(註199)(註200)(註201)(註202)(註203)(註204)(註205)(註206)(註207)(註208)(註209)(註210)(註211)(註212)(註213)(註214)(註215)(註216)(註217)(註218)(註219)(註220)(註221)(註222)(註223)(註224)(註225)(註226)(註227)(註228)(註229)(註230)(註231)(註232)(註233)(註234)(註235)

(14)
(15) 釋云、次作釋師子漫荼羅即釋迦也諦聽佛子也當作金剛四方令普～右邊置錫杖也（行番号19）→『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1―五四〇頁上）。
云→「曰」大正蔵、仏全本。
漫→「曼」大正蔵。
聴→「聽」大正蔵、仏全本。
(16) 此金剛即是→〔参考〕「此金剛〔三ホ八即〕是」『義釈』（『続天台』密教1―五四〇頁上）。
五輪中→〔参考〕「五輪中〔中イ〔ナシ〕〕」『義釈』（『続天台』密教1―五四〇頁上）。
稱也→〔参考〕「稱也〔也三〔ナシ〕〕」『義釈』（『続天台』密教1―五四〇頁上）。
(17) 杵三股→「杵三股」長福寺本。
鉢々→「鉢鉢」大正蔵、仏全本。
四邊→〔参考〕「邊（傍書「ホ八四」）」『義釈』（『続天台』密教1―五四〇頁上）。
(18) 光々→「尖光」大正蔵、「炎光」仏全本、長福寺本。〔参考〕「焔光（傍書「焔イ三ホ八炎」）」『義釈』（『続天台』密教1―五四〇頁上）。
持鉢以→【書き込み】「持鉢○（傍書「又」）以」。「持鉢又以」大正蔵、仏全本。〔参考〕「持鉢又以」『義釈』（『続天台』密教1―五四〇頁上）。
繞之→〔参考〕「圍之」『義釈』（『続天台』密教1―五四〇頁上）。
(19) 右邊置袈裟→【書き込み】「右（別筆傍書「左歟」）邊置袈裟」。〔参考〕「右邊置袈裟」『義釈』（『続天台』密教1―五四〇頁上）。
右邊置錫杖→「左邊置錫杖」大正蔵、仏全本。〔参考〕「左（傍書「左イ右」）邊置錫杖」『義釈』（『続天台』密教1―五四〇頁上）。
具縁品云、次往第二院～住彼而説法→『大日経』巻第一・入漫荼羅具縁真言品第二之一（『大正蔵』18―七b～c）。
具縁品云→「具縁品頌曰」仏全本。
(20) ※以下、行番号51まで、一紙一折（二葉）分錯簡。
(21) 花→「華」大正蔵、仏全本、長福寺本。
為→「爲」大正蔵、仏全本。
(22)
(23) 釋云、次往第二院畫釋迦牟尼～故云住彼而説法也（行番号33）→『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1―一四三頁下～一四四頁上）。
云→「曰」仏全本。
(24) 従→「從」大正蔵、仏全本。
属→「屬」大正蔵、仏全本。
為→「爲」大正蔵、仏全本。
(25) 属→「屬」大正蔵、仏全本。
為→「爲」大正蔵、仏全本。
尼身→【書き込み】「尼○（別筆右傍書「生」）身」。「尼生身」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔参考〕「尼生身」『義釈』（『続天台』密教1―一四三頁下）。
(26) 為→「爲」大正蔵、仏全本。
第三→「第二」仏全本。〔参考〕「第二（傍書「二ホ三」）」『義釈』（『続天台』密教1―一四三頁下）。
下化→「下々化」長福寺本。〔参考〕「下化」『義釈』（『続天台』密教1―一四三頁下）。
第二→「第三」仏全本。〔参考〕「第三（傍書「三ホ二」）」『義釈』（『続天台』密教1―一四三頁下）。
(27) 来→「來」大正蔵、仏全本。
密蔵→「密藏」大正蔵、仏全本、「蜜蔵」長福寺本。〔参考〕「秘藏（傍書「秘イホ八密」）」『義釈』（『続天台』密教1―一四三頁下）。
為→「爲」大正蔵、仏全本。
慢→〔補足〕「慢 オコタル、アナツル」『類聚名義抄』法中九四。
従→「從」大正蔵、仏全本。
(28) 乱経文→「亂經文」大正蔵、「亂經文故」仏全本、「乱経文故」長福寺本。〔参考〕「亂經文故」『義釈』（『続天台』密教1―一四三頁下）。
初門→「初門中」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔参考〕「初門中」『義釈』（『続天台』密教1―一四三頁下）。
(29) 真→「眞」大正蔵、仏全本。
光輝→〔参考〕「光耀（傍書「耀イロホ八輝」）」『義釈』（『続天台』密教1―一四三頁下）。
乾陀色→〔参考〕杲宝撰『大日経疏演奥鈔』「乾陀色者、章服儀道宣云、木蘭一染此方有之、赤多黒少、若乾陀色二十右業疏四上云、赤即木蘭所染微渉黒色」（『大正蔵』59―一四九c）。
(30) 花→「華」大正蔵、仏全本。
(31)
(32) 台→〔参考〕「胎」『義釈』（『続天台』密教1―一四四頁上）。
浄→「淨」大正蔵、仏全本、長福寺本。
蔵→「藏」大正蔵、仏全本。
為→「爲」大正蔵、仏全本。
此生身→「以此生身」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔参考〕「以此生身」『義釈』（『続天台』密教1―一四四頁上）。
(33) 然→「状（割註「𣰰状一作然）」仏全本。
与→「與」大正蔵、仏全本。
无→「無」大正蔵。
彼→「住彼」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔参考〕「住彼」『義釈』（『続天台』密教1―一四四頁上）。
(34) 轉字品云、次當出外於第二分～或以字句所謂波字（行番号36）→『大日経』巻第三・転字輪漫曼荼羅行品第八（『大正蔵』18―二三b～c）。
次當出外於→「○（傍書「ク次當出外」）於」仏全本。
畫釋迦→「畫釋迦種」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔参考〕「畫釋迦種」『大日経』（『大正蔵』18―二三b）。
被袈裟→「被袈裟衣」大正蔵、仏全本、長福寺本〔参考〕「被袈裟衣」『大日経』（『大正蔵』18―二三b）。
(35) 卅→「三十」大正蔵。〔参考〕「三十」『大日経』（『大正蔵』18―二三b）。
相→【書き込み】（別筆右傍朱書）「アラシメヨ」。
為→「爲」大正蔵、仏全本。
无→「無」大正蔵。
(36) 或以→「或（傍書「義原本」）以」仏全本。〔参考〕「或以」『大日教』（『大正蔵』18―二三c）。
波字→「婆字」大正蔵、仏全本、長福寺本〔参考〕「婆字」『大日経』（『大正蔵』18―二三c）。
(37) 釋云、次出外第三院畫牟尼王釋迦種姓～謂秘蜜勝上義也（行番号40）→『義釈』巻第十・転字輪漫荼羅行品第八之餘（『続天台』密教1―四五六頁下～四五七頁上）。
次出外→〔参考〕「次出外向」『義釈』（『続天台』密教1―四五六頁下）。

三→「二」大正蔵、仏全本。〔参考〕「三（傍書「三イ㊀ロ八二」）」『義釈』（『続天台』密教1—四五六頁下）。

(38) 卅→「三十」大正蔵。〔参考〕「三十」『義釈』（『続天台』密教1—四五七頁上）。
无→「無」大正蔵。
皆→「衆生」仏全本。〔参考〕「皆」『義釈』（『続天台』密教1—四五七頁上）。
无畏也→「無畏也」大正蔵、「无畏故也」仏全本。〔参考〕「無畏故也（也㊀ナシ）」『義釈』（『続天台』密教1—四五七頁上）。

(39) 謂錫杖→「等謂錫杖」仏全本。〔参考〕「等（等イ八ナシ）謂錫（錫㊀ナシ）杖」『義釈』（『続天台』密教1—四五七頁上）。
 →「」仏全本。〔参考〕「」『義釈』（『続天台』密教1—四五七頁上）。

(40) 為→「爲」大正蔵、仏全本。
蜜→「密」大正蔵、仏全本。〔参考〕「密」『義釈』（『続天台』密教1—四五七頁上）。

(41) 蔵品云、時釋迦牟尼世尊入於寶處三昧、説自心及眷属真言（行番号42）→『大日経』巻第二・普通真言蔵品第四（『大正蔵』18—一四c）。
蔵→「藏」大正蔵、仏全本。
寶→「寶」大正蔵、仏全本。

(42) 属→「屬」大正蔵、仏全本。
真→「眞」大正蔵、仏全本。
釋云、由此三昧故～此中當廣説（行番号46）→『義釈』巻第七・普通真言蔵品第四（『続天台』密教1—二九二頁上）。

(43) 来→「來」大正蔵、仏全本。
出→【書き込み】（右傍書見せ消ち）「〻」、（左傍書）「-」。「（ナシ）」大正蔵、仏全本、長福寺本。
无量→「無量」大正蔵。
无邊→「無邊」大正蔵、仏全本。

(44) 寶→「寶」大正蔵、仏全本。
蔵→「藏」大正蔵、仏全本。

(45) 寶→「寶」大正蔵、仏全本。
无→「無」大正蔵。
随→「隨」大正蔵、仏全本。
之取→「取之」大正蔵、仏全本。〔参考〕「取之」『義釈』（『続天台』密教1—二九二頁上）。

(46) 法花經→「法華經」大正蔵、仏全本、「法花経」長福寺本。
廣説→「廣説也」仏全本、長福寺本。〔参考〕「廣説也」『義釈』（『続天台』密教1—二九二頁上）。

(47) 所傳圖釋迦并眷属皆在第三重天部中→『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1—一五七頁）。
属→「屬」大正蔵、仏全本。

(48)

(49)

(50) 屈中无名指→「屈中无名指（傍書見せ消ち「指頭少向右」）」長福寺本。
无→「無」大正蔵。
或圖側竪掌大指頭指相捻小指少開、山圖大指中指相捻→「或圖側竪掌大指頭指相捻小指少開、山圖大指中指相捻」長福寺本。

(51)

(52) 或圖舒掌向身屈中名指、其頭小指少屈、結跏趺坐蓮上→「或圖舒掌向身屈中名指、其頭小指少屈、結跏趺坐蓮上」仏全本、「或圖舒掌向身屈中名指、其頭小指少屈結跏趺坐蓮上」長福寺本。

(53) 寶→「寶」大正蔵、仏全本。

(54) 敷→〔補足〕「敷 ヒラク」『類聚名義抄』僧中五五。

(55)

(56) 梵号→「梵號」大正蔵、仏全本。
 →「（本）」仏全本。
→「」長福寺本。
蜜号→「密號」大正蔵、仏全本、「密号」長福寺本。
无→「無」大正蔵、仏全本。

(57)

(58)

(59) 或圖四指屈持之→「或圖四指屈持之」仏全本。

(60)

(61) 敷→〔補足〕「敷」（註54参照）。

(62) 覩自→【書き込み】「覩自（別筆傍書「在」）」。「觀自在」大正蔵、仏全本。「觀自在」長福寺本。

(63) 号→「號」大正蔵、仏全本。
→「（ナシ）」長福寺本。
浄→「淨」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(64) 未敷蓮→「未開敷蓮」大正蔵、「未開敷蓮花」仏全本。

(65)

(66) 山圖持含蓮→「山圖持含蓮」長福寺本。

(67) 无→「無」大正蔵、仏全本。

(68) →「（本）」仏全本。「」長福寺本。

(69) 号→「號」大正蔵、仏全本。
→【書き込み】「（朱傍書「」）」。「」大正蔵、仏全本、「」長福寺本。

(70) 大口→「大口」長福寺本。

(71) 秘密品云、无能勝大口、而在黒蓮上（行番号72）→『大日経』巻第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18—三五a）。
密→「蜜」長福寺本。

(72) 釋云、无能勝王作口印在黒蓮之上～即移釋迦在外餘皆可例解耳（行番号75）→『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1—五四〇頁下）。
无能勝大口→「無能勝大口」大正蔵、仏全本。
无能勝王作→「無能勝王作」大正蔵。

(73) 其口→「其」大正蔵、仏全本。〔参考〕「其口」『義釈』（『続天台』密教1—五四〇頁下）。

(74) 為→「爲」大正蔵、仏全本。
列居→「列（割注「考列下一本有之字」）居」仏全本。〔参考〕「列居」『続天台』密教1—五四〇頁下）。
随→「隨」大正蔵、仏全本。
一々→「一一」仏全本。〔参考〕「一一」『義釈』（『続天台』密教1—五四〇頁下）。

(75) 為→「爲」大正蔵、仏全本。
漫→「曼」大正蔵、「万」仏全本。
耳→「（ナシ）」仏全本。〔参考〕「耳」『義釈』（『続天台』密教1—五四〇頁下）。

(76) 具縁品云、佛子次應作、持明大忿怒、右号无能勝、左无能勝妃（行番号77）→『大日経』巻第一・入漫荼羅具縁真言品第二之一（『大正蔵』18—八a）。
号→「號」大正蔵、仏全本。
无→「無」大正蔵。

(77) 釋云、釋迦牟尼座下應作忿怒持明～而坐其間（行番号79）→『義

釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1—一四七頁上）。

号→「號」大正蔵、「方」仏全本。〔参考〕「號」『義釈』（『続天台』密教1—一四七頁上）。

(78) 无→「無」大正蔵。

号→「號」大正蔵、「方」仏全本。〔参考〕「號」『義釈』（『続天台』密教1—一四七頁上）。

並→「普」長福寺本。〔参考〕「並」『義釈』（『続天台』密教1—一四七頁上）。

覩→「觀」大正蔵、仏全本、「觀」長福寺本。

(79) 蔵品釋云、又无能勝真言是釋迦眷属中～遍摧諸障調伏衆生（行番号81）→『義釈』巻第七・普通真言蔵品第四（『続天台』密教1—二九四頁上）。

蔵品釋→「藏品釋」大正蔵、「眞言藏品釋」仏全本。

无→「無」大正蔵、仏全本。

真→「眞」大正蔵、仏全本。

属→「屬」大正蔵、仏全本。

(80) 明王→〔参考〕「明王也（傍書「也㋑㋺㋩ナシ」）」『義釈』（『続天台』密教1—二九四頁上）。

无→「無」大正蔵、仏全本。

(81) 随→「隨」大正蔵、仏全本。

(82)

(83) 左右面頂上面著金線冠、四面无冠繒、或三面无額目、肉色→「或三面无額目、肉色、左右面頂上面著金線冠、四面无冠繒」長福寺本。

无→「無」大正蔵。

(84) 无→「無」大正蔵、仏全本。

(85) 反向上→「反拳向上」仏全本。

改→〔補足〕「アラタム」『類聚名義抄』僧中五〇。

(86) 妳→「嬭」大正蔵、仏全本。

(87) 三胠戟→「三胡戟」大正蔵、仏全本。

(88) 各舒足→「各足」大正蔵、仏全本、長福寺本。

飄→「飄」大正蔵、仏全本。

後→「徬」仏全本。

(89) 亦戟→「人戟」仏全本。

(90) 或圖无→「或圖無」大正蔵、「或圖无、或圖肉色、三目四臂、右次手擧臂反掌、左拳當胸」仏全本。

(91) 无→「無」大正蔵、仏全本。

(92) 号→「號」大正蔵、仏全本。

→「  」仏全本

→「  」大正蔵、「  」仏全本。

(93) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(94)

(95) 秘密品云、无能勝妃印以手持蓮花→『大日経』巻第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18—三五a）。

无→「無」大正蔵。

(96) 釋云、无能勝明妃持蓮印（謂空風指捻花餘指申之捻花指向心前持）～准種子字中也（行番号98）→『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1—五四〇頁下）。

无→「無」大正蔵。

（謂空風指捻花餘指申之捻花指向心前持）→「謂空風指捻花餘指申之、捻花指（傍書「持原本」）向心前持」仏全本。〔参考〕「謂空風指捻花餘指申之捻花指向心前持（也㋑～㋥ナシ）」『義釈』（『続天台』密教1—五四〇頁下）。

(97) 无→「無」大正蔵。

(98) 准→〔参考〕「準（㋑㋺㋩准）」『義釈』（『続天台』密教1—五四〇頁下）。

蔵品釋云、又无能勝妃定亦～故以爲名也→（行番号100）『義釈』巻第七・普通真言蔵品第四（『続天台』密教1—二九六頁上～二九七頁上）。

蔵→「藏」大正蔵、仏全本。

无→「無」大正蔵。

(99) 寶→「寶」大正蔵、仏全本。

恵→「慧」大正蔵、「惠」仏全本。〔参考〕「慧」『義釈』（『続天台』密教1—二九六頁上）。

(100) 定→「々」長福寺本。

恵故→「慧故」大正蔵、「惠故」仏全本。〔参考〕「慧合故」『義釈』（『続天台』密教1—二九七頁上）。

无→「無」大正蔵、「眞」仏全本。〔参考〕「無」『義釈』（『続天台』密教1—二九七頁上）。

為→「爲」大正蔵、仏全本。

(101) 髪→【書き込み】「○（別筆傍書「火」）髪」、「火髪」大正蔵、仏全本、長福寺本。

聳竪金線→「（ナシ）」仏全本。

緑髪无→「緑髪無」大正蔵、「（ナシ）」仏全本、「纏髻无」長福寺本。

(102) 冠繒、面→「（ナシ）」仏全本。

辰→「唇」大正蔵、仏全本、「脣」長福寺本。

身及面少仰膽→「（ナシ）」仏全本、「身及面小仰膽」長福寺本。

或圖赤肉色→「（ナシ）」仏全本。

(103) 髪冠→「（ナシ）」仏全本、「髻冠」長福寺本。

蹴眉嗔目其口如常→「（ナシ）」仏全本。〔補足〕「蹴 ヒク」『類聚名義抄』法上八五。

太舒上→「舒」仏全本。

(104) 或圖→「（ナシ）」仏全本、長福寺本。

擧臂竪掌→「（ナシ）」仏全本。

向右→「（ナシ）」仏全本、「面向右」長福寺本。

右手竪拳舒上頭→「右手竪擧舒上頭」大正蔵、「左手」仏全本、「或圖左手竪拳舒上頭」長福寺本。

(105) 指當於乳房→「當心、面向左方、左膝屈、或圖肉色、如髻」仏全本。

披著天衣→「被襤襠衣」仏全本、「或圖被襤襠衣、披著天衣」長福寺本。

其肩上→「其房上」大正蔵、「（ナシ）」仏全本。

及二端飄上在背不→「（ナシ）」仏全本。

(106) 著衣裙子亦飄→「右手擧臂竪掌向右、左手擧舒頭指（割註「考指下一本有背字」）」仏全本。

无→「無」大正蔵。

小指向→「小指指向」長福寺本。

(107) 持獨胠→「（ナシ）」仏全本。

當胸→「當胸依寶珠、或圖赤寶」仏全本。

左足屈→「（ナシ）」仏全本。

右足舒→「（ナシ）」仏全本。「右足斜」長福寺本。

各立蓮上、下四尊→「（ナシ）」仏全本。「各立蓮上、已下四尊」長福寺本。

(108) 唯有円光、无身光、著足環→「（ナシ）」仏全本。

円→「圓」大正蔵。

(109) 无→「無」大正蔵。

(110) (109)

(111) 現圖→「（ナシ）」仏全本。

有→「頭有」長福寺本。

(112) 牙齒→「（ナシ）」仏全本、長福寺本。

門上横木出其口→「門上横木出其□」大正蔵、「門上」仏全本。

□又以鼻絞木→「不叉以鼻絞木」大正蔵、「（ナシ）」仏全本、「口又以鼻絞木」長福寺本。

頭上有蓮上緑寶珠、或圖赤寶、此圖其→「（ナシ）」仏全本。

(113) 寶→「寶」大正蔵。

獸鼻上有物似寶體異也→「（ナシ）」仏全本。

(114) 寶→「寶」大正蔵。

横木→「襟木」仏全本。

口含横木、上下牙齒皆現→「（ナシ）」仏全本。

(115) 頭上有蓮々上青寶→「頭青色三角寶」仏全本。

蓮々上→「蓮上」長福寺本。

寶→「寶」大正蔵。

有臂持横木→「有獸臂」仏全本、「○（傍書「有」）獸臂持横木」長福寺本。

(116) 上蓮々上→「（ナシ）」仏全本、「上蓮上」長福寺本。

赤寶→「赤寶」大正蔵、「赤色寶珠」仏全本。

或圖青寶→「皆有光焰」仏全本。

(117) 寶→「寶」大正蔵。

皆有光焰→「或圖青寶」仏全本。

(118) 来→「來」大正蔵、仏全本、長福寺本。

寶→「寶」大正蔵、仏全本。

六→「（ナシ）」仏全本。

(119) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(120) 多→「但」仏全本。

如々不可得故→「（ナシ）」仏全本。

(121) 私云、是為能寂母→〔参考〕「安置佛眼、亦是釋迦牟尼佛母、此方譯爲能寂母也」『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1―一四四頁上）。

(122) 為→「爲」大正蔵、仏全本。

按具縁品云、次於世尊右、顕示遍智眼→『大日経』巻第一・入漫荼羅具縁真言品第二之一（『大正蔵』18―七c）。

按→「（ナシ）」仏全本。

顕→「顯」大正蔵、仏全本。

遍智→「遍知」大正蔵、仏全本。〔参考〕「遍知」『大日経』（『大正蔵』18―七c）。

眼→「眼（割註「考眼下一本有熙怡相微咲遍躰圓滿光喜見無比身是名能寂母二十字」）」仏全本。

又云、復於彼尊右、圖寫毫相皺云々→『大日経』巻第一・入漫荼羅具縁真言品第二之一（『大正蔵』18―七c）。

又云→「（ナシ）」仏全本。

寫→「寫」大正蔵、仏全本。〔参考〕「寫」『大日経』（『大正蔵』18―七c）。

皺→「明」大正蔵、仏全本、長福寺本。

釋迦右→「釋迦」仏全本。

遍智→「遍知」大正蔵、仏全本。

(123) 遍智→「遍知」大正蔵、仏全本。

毫→「豪」仏全本。

今撿圖位釋迦右～毫相→『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五七頁）。

(124) 来→「來」大正蔵、仏全本、長福寺本。

寶→「寶」大正蔵、仏全本。

(125) 来→「來」大正蔵、仏全本、長福寺本。

遍智眼位→「遍知眼」大正蔵、仏全本。

現圖尊→「圖尊」仏全本。

寶→「寶」大正蔵、仏全本。

(126) 随→「隨」大正蔵、仏全本。

釋云、一切諸佛菩薩真陀摩尼印～一切諸佛菩薩之通印也（行番号128）→『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1―一三九頁下）。

一切諸佛→「一切諸」仏全本。

真陀摩尼印→「眞陀摩尼印」大正蔵、「（ナシ）」仏全本。

(127) 若諸佛菩薩→「若諸佛」仏全本。

經中不言→「（ナシ）」仏全本。

持印相者→〔参考〕「持印相者亦（傍書「亦㋑ナシ」）」『義釈』（『続天台』密教1―一三九頁下）。

執此→「此執」仏全本。〔参考〕「執此」『義釈』（『続天台』密教1―一三九頁下）。

(128) 无→「無」大正蔵、仏全本。

得云々、故知→「（ナシ）」仏全本。

(129) 寶→「寶」大正蔵、仏全本。

持佛頂印→「持佛頂印（割註「考印下一本有所字」）」仏全本。

(130) 復→「後」仏全本。

者訛畫→「（ナシ）」仏全本。

(131) 視→「觀」大正蔵、仏全本、「觀」長福寺本。

来→「來」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(132) 寶→「寶」大正蔵、仏全本。

具縁品云、次於世尊右、顕示遍智眼～是名能寂母（行番号132）→『大日経』巻第一・入漫荼羅具縁真言品第二之一（『大正蔵』18―七c）。

(133) 顕→「顯」大正蔵、仏全本。

亦→「示」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔参考〕「示」『大日経』（『大正蔵』18―七c）。

體→「躰」仏全本。

円浄→「圓淨」大正蔵、仏全本。

(134) 无→「無」大正蔵。

釋云、次於世尊北邊安置佛眼、亦是釋迦牟尼佛母～故云、過體円浄光也（行番号137）→『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1―一四四頁上）。

(135) 此→「比」仏全本。〔参考〕「此」『大日経』（『大正蔵』18―七c）。

佛眼→「佛頂（傍書「ク眼」）」仏全本。

釋→「譯」大正蔵、仏全本。

為→「爲」大正蔵、仏全本。

无此→「無比」大正蔵。「无比」仏全本。長楽寺本。〔参考〕「無比」『義釈』（『続天台』密教1―一四四頁上）。

有円光→「有圓光」大正蔵、「（ナシ）」仏全本。

来→「來」大正蔵、仏全本、長福寺本。
随→「隨」大正蔵、仏全本。
三昧正以→「三昧（「考昧下釋有此三昧正以五字」）」仏全本。

(136) 大→「此」仏全本。
躰→「體」大正蔵。
覩蜜→【書き込み】「覩蜜（「虫」部に墨を入れて「示」／別筆右傍書「サツ」）」。「觀察」大正蔵、仏全本、長福寺本。
利→「引」仏全本。
慈眼之→「（ナシ）」仏全本。

(137) 无→「無」大正蔵。
體→「躰」仏全本。
円浄→「圓淨」大正蔵、「圓滿（割註「考滿一作淨」）」仏全本。
秘密品云、佛眼次當聽、頂髻遍黄色、圍以抜折羅（行番号138）→『大日経』巻第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18—三五a）。

(138) 聽→「聽」大正蔵、仏全本。

(139) 釋云、佛眼當作佛頂髻形、両邊置眼其頂黄色、以金剛圍之（行番号140）→『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1—五四〇頁下）。
其頂→「其佛頂」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔参考〕「其佛頂」『義釈』（『続天台』密教1—五四〇頁下）。

(140)

(141) 現圖在→「現圖（割注「考圖下一本有在字」）」仏全本。
東門北→「門北」仏全本。
遍身→「通身」仏全本。

(142) 中名指→「中无名指」仏全本。
少屈→「小屈」長福寺本。
或圖→「或圖中（割注「考一本無中字」）」仏全本。
屈中名小指→「屈中无名小指」仏全本。

(143) 寶→「寶」大正蔵、仏全本。
竪申頭指→「（ナシ）」仏全本。

(144) 執蓮上青珠→「青珠」仏全本。
視→「視形」仏全本。

(145) 来→「來」大正蔵、仏全本、長福寺本。
七→「（ナシ）」仏全本。

(146) 号→「號」大正蔵、仏全本。
[梵字]→「[梵字]」大正蔵、「[梵字]（一本）」仏全本、「[梵字]」長福寺本。

(147) 多初→「（ナシ）」仏全本。
如々不可得故→「（ナシ）」仏全本。

(148) 寶→「寶」大正蔵、仏全本。

(149) 具縁品云、復於彼尊右～暉光大精進（行番号151）→『大日経』巻第一・入漫荼羅具縁真言品第二之一（『大正蔵』18—七c）。

(150) 復於彼尊右→「（ナシ）」仏全本。
寫→「寫」大正蔵、仏全本。
華→「花」大正蔵、仏全本。
円→「圓」大正蔵、仏全本。

(151) 寶→「寶」大正蔵、仏全本。

(152) 釋云、次於佛母之北～能満足一切衆願也（行番号155）→『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1—一四四上）。
来→「來」大正蔵、仏全本、長福寺本。
作商→「（ナシ）」仏全本。

(153) 佉→「（ナシ）」仏全本。
円→「圓」大正蔵、仏全本、長福寺本。
内→「内有」仏全本、長福寺本。
如意寶珠→「如意珠」大正蔵、仏全本。
此→「（ナシ）」仏全本。

(154) 来→「來」大正蔵、仏全本。
无→「無」大正蔵。
覩→「觀」大正蔵、仏全本、「觀」長福寺本。
經→「経」長福寺本。

(155) 満→「滿」大正蔵、仏全本、長福寺本。
衆願→「衆生願」仏全本。長福寺本。〔参考〕「衆生願」『義釈』（『続天台』密教1—一四四上）。
秘密品云、毫相摩尼珠→『大日経』巻第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18—三五a）。

(156) 釋云、佛毫相用如意珠為印～色類謂白黄亦等也（行番号158）→『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1—五四〇下）。
為→「爲」大正蔵、仏全本。
此名印→「此名（傍書「㋑㋥㋭㋩印」）」『義釈』（『続天台』密教1—五四〇下）。
漫→「曼」大正蔵。

(157) 法→「法等」仏全本、長福寺本。〔参考〕「法等」『義釈』（『続天台』密教1—五四〇下）。
随→「隨」大正蔵、仏全本。

(158) 覩→「觀」大正蔵、仏全本、「觀」長福寺本。
亦→「赤」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔参考〕「赤」『義釈』（『続天台』密教1—五四〇下）。

(159) 蔵品釋云、是如来无量功徳之所～一種満願如意珠也（行番号160）→『義釈』巻第七・普通真言蔵品第四（『続天台』密教1—二九三上）。
蔵→「藏」大正蔵、仏全本。
来→「來」大正蔵、仏全本。
无→「無」大正蔵、仏全本。
寶→「寶」大正蔵、仏全本。

(160) 寶→「寶」大正蔵、仏全本。
成即寶所→「（ナシ）」仏全本。
満→「滿」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(161) 現圖在→「現圖（割注「考圖下一本有在字」）」仏全本。
来→「來」大正蔵、仏全本。
寶→「寶」大正蔵、仏全本。
其身→「（ナシ）」仏全本。
右手申掌→「右掌」仏全本。

(162) 大指少屈→「（ナシ）」仏全本。
屈其頭指少→「（ナシ）」仏全本。

(163) 屈中名執→「（ナシ）」仏全本。
蓮上緑珠→「蓮上珠」仏全本。
有光焔→「光焔」大正蔵、「（ナシ）」仏全本。
或圖覆舒掌執蓮上青珠有光、山圖蓮上光焔→「或圖覆掌執蓮上青珠、山圖蓮上光焔」仏全本。
舒掌→「掌」仏全本。

(164) 有光→「（ナシ）」仏全本。
頚繋青珠、面→「頸繋青珠、面」大正蔵、「頭指執」仏全本。

(165) 向左方～坐黄蓮→「（ナシ）」仏全本。

(166) 八→「（ナシ）」仏全本。

(167) 号→「號」大正蔵、仏全本。

(168) →「」大正蔵、「  」仏全本。
号→「號」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、「（判読不能）」仏全本。
吒嚕吽[三合]→「（ナシ）」仏全本。

(169)

(170) 禅門云、口決廣大發生佛頂→出典未詳。〔補足〕「第百六十九廣大發生佛頂印」安然撰『胎藏界大法対授記』（『大日経』75―八二ｃ）。
禅→「禪」大正蔵、仏全本、長福寺本。
決→「決」大正蔵、仏全本。
私云、為廣生佛頂亦名廣大→〔補足〕※註171の『義釈』参照。
私云→「秘云」長福寺本。
為→「爲」大正蔵、仏全本。

(171) 亦名→「亦（割注「罔亦下一本有名字」）」仏全本。
具縁品云、於毫相之右～初名廣大頂→『大日経』巻第一・入漫荼羅具縁真言品第二之一（『大正蔵』18―七ｃ）。
釋云、此天次南毫相之右、復畫三佛頂、第一名廣大佛頂（行番号172）→『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1―一四四下）。

(172)

(173) 私按彼品説五浄居、次説三佛頂→〔参考〕「次於東方最近北邊布列五浄居衆（中略）此天次南毫相之右、復畫三佛頂」『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1―一四四下）。
次説→「秘密品説」仏全本。

(174) 即當→「即廣生」仏全本。
秘蜜品廣生位、彼云廣生抜折羅→『大日経』巻第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18―三五ａ）。
蜜→「密」大正蔵、仏全本、長福寺本。
廣生位、彼云→「云」仏全本。
釋云、會通大佛頂以金剛為印→『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1―五四〇上）。

(175) 為→「爲」大正蔵、仏全本。
密印品釋云、廣生佛印如前五股金剛印也→『義釈』巻第十・密印品第十（『続天台』密教1―四八〇上）。

(176) 私案結闕印→「私案經欽印」大正蔵、「私按經印相闕之」仏全本、「私案経闕印」長福寺本。
所傳圖釋迦南如来錫杖左有四佛頂勝火聚廣大无量音聲也→「（ナシ）」仏全本。〔参考〕『義釈』巻第四・阿闍梨所伝漫荼羅図位（『続天台』密教1―一五六～一五七）。

(177) 来→「來」大正蔵、長福寺本。
无→「無」大正蔵。
无→「無」大正蔵。

(178) 无→「無」大正蔵。

(179) 蓮→「蓮花」仏全本。
或圖上三股下一股似悞→「（ナシ）」仏全本。
悞→「誤」大正蔵。〔参考〕「悞 アヤマル、又誤」『類聚名義抄』法中八三。

(180) 无→「無」大正蔵。
或圖中名指→「或圖屈中无名指」仏全本（※当該句は「面向左方」の直後に表記）、「或圖屈中名指」長福寺本。
山圖屈中指、面向左方→「面向左方、山圖屈中指」大正蔵、「面向左方」仏全本。
已上→【書き込み】「已上（朱傍書「下カ」）」。「已下」大正蔵、「（ナシ）」仏全本、「或圖（見せ消ち「〃〃」）已下」長福寺本。

(181) 三佛頂皆金色菩薩形也→「（ナシ）」仏全本。

(182) 九→「（ナシ）」仏全本。

(183) 号→「號」大正蔵、仏全本。
→「（本）」仏全本。

(184) →「」仏全本。
号→「號」大正蔵、仏全本。

(185) 三摩耶形→「三」仏全本。

(186) 具縁品云、衆徳光聚→「具縁品云、衆徳火光聚」仏全本、長福寺本。〔参考〕「衆徳火光聚」『大日経』巻第一・入漫荼羅具縁真言品第二之一（『大正蔵』18―七ｃ）。
第四帝殊羅施譯云火聚頂～是具大徳義也（行番号187）→『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1―一四四下）。

(187) 云、第四帝殊羅施譯云火聚頂→「釋云、第四帝殊羅施譯云火聚頂」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔参考〕「第四諦（傍書「諦イ帝」）殊羅施譯云火聚佛（傍書「佛ホ〈ナシ〉」）頂」『義釈』（『続天台』密教1―一四四下）。
経云→「經云」大正蔵、仏全本。
大徳義也→〔参考〕「大徳之（傍書「之イロホ〈ナシ〉」）義也」『義釈』（『続天台』密教1―一四四下）。

(188) 私案、五佛頂第四佛頂也→〔補足〕註186の『義釈』参照。
秘密品云、大士頂髻相、是名火聚印→『大日経』巻第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18―三五ａ）。

(189) 釋云、火聚佛頂畫佛頂髻形（大士者号金剛也）（行番号189）→『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1―五四〇上）。
（大士者号金剛也）→【書き込み】（別筆左傍朱書）「相是名大聚印、釋云、火聚佛頂畫佛頂髻」。「（大士者號金剛也）」大正蔵、「（大士者號金剛也）」仏全本。

(190) 少側→「側」仏全本。「小側」長福寺本。
或圖屈中名指、山圖屈頭指→「（或圖屈中名指、山圖屈頭指）」仏全本。

(191) 拳當→「當」仏全本。

(192) 當腰向内→「（ナシ）」仏全本。「或圖當腰向内」長福寺本。

(193) 執→「（ナシ）」仏全本。
山圖執蓮→「（山圖執蓮）」仏全本。
坐黄蓮也→「坐黄色蓮」大正蔵、長福寺本、「（ナシ）」仏全本。

(194) 无→「無」大正蔵、仏全本、長福寺本。
十→「（ナシ）」仏全本。
→「」大正蔵、長福寺本、「（本）」仏全本。

(195) →「」大正蔵、長福寺本、「」仏全本。
 →「  」大正蔵、仏全本。

(196)

(197)  →「  」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
 →「  」大正蔵、仏全本。
 →「  」大正蔵、仏全本。
 →「  」大正蔵、仏全本。
 →「  」大正蔵、仏全本。
 →「  」大正蔵、仏全本。
→「  」大正蔵、仏全本。
 →「  」大正蔵、仏全本。
 →「  」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。
→「」大正蔵、仏全本。

(198) 无→「無」大正蔵。
来→「來」大正蔵、仏全本。長福寺本。
真→「眞」大正蔵、仏全本。

(199)

(200)

(201) 釋云、第三名无邊音聲佛頂～故悉能満足一切願也（行番号207）→『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1—一四四下～一四五上）。

无→「無」大正蔵。

(202) 来→「來」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(203) 真→「眞」大正蔵、仏全本。

浅→「淺」大正蔵、仏全本。長福寺本。

(204) 真→「眞」大正蔵、仏全本。

浄→「淨」大正蔵、仏全本。

(205) 則三色→「則（割注「考則下一本有有字」）三色」仏全本。

黄色→「（ナシ）」仏全本。

(206)

(207) 如来→「如來」大正蔵、「如是」仏全本。

无→「無」大正蔵。

(208) 在八佛頂→「在（割注「考一本無在字」）佛頂在」仏全本。

惣→「總」大正蔵。

此→「是」大正蔵、仏全本。

文→「（ナシ）」大正蔵、「也」仏全本。

秘密品云、无量聲商佉、覩察知像類→『大日経』巻第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18—三五a）。

(209) 无→「無」大正蔵。

覩→「觀」大正蔵、仏全本。「觀」長福寺本。

察→「察（傍書「密原本」）」仏全本。

和→「知」大正蔵、仏全本、長福寺本。〔参考〕「知」『大日経』（『大正蔵』18—三五a）。

釋云、无量音佛頂以珂貝～佉也色類應觀知謂如前説（行番号210）→『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1—五四〇上～下）。

(210) 觀→「觀」大正蔵、仏全本。

(211) 少指少開→「小指少開」大正蔵、長福寺本。「（ナシ）」仏全本。

二圖同屈中无名指→「二圖同屈中無名指」大正蔵。

无→「無」大正蔵。

當腰→「當於腰」仏全本。

(212) 竪→「（ナシ）」仏全本。

口在下→「（ナシ）」仏全本。

其蓮大敷→「其蓮太敷」大正蔵、長福寺本。「（ナシ）」仏全本。〔補足〕「敷」（註54参照）。

或圖如常→「（ナシ）」仏全本。

(213) 来→「來」大正蔵、仏全本、長福寺本。

十一→「（ナシ）」仏全本。

(214) 号→「號」大正蔵、仏全本。

 →「  」仏全本、

 →「  」仏全本、

 →「  」仏全本、長福寺本。

(215) 号→「號」大正蔵、仏全本。

迦初→「迦」仏全本。

離作業故→「（ナシ）」仏全本。

(216) 三摩耶形→「三々々々」仏全本。

(217) 経釈→「經釋」大正蔵、長福寺本、「經疏」仏全本。

玄法寺儀軌列之→「青龍寺儀軌列之」仏全本。〔参考〕「如来悲」『玄法寺儀軌（大毘盧遮那成仏神変加持経蓮華胎蔵悲生曼荼羅広大成就儀軌供養方便会）』巻第二（『大正蔵』18—一二〇b）、『同（別本）』巻下（『大正蔵』18—一三七c）、『青龍寺儀軌（大毘盧遮那成仏神変加持経蓮華胎蔵菩提幢標幟普通真言蔵広大成就瑜伽）』巻下（『大正蔵』18—一五九a）。

(218) 无→「無」大正蔵。

来→「來」大正蔵、仏全本、長福寺本。

浄→「淨」大正蔵、仏全本。

経釈→「經釋」大正蔵、長福寺本、「經疏」仏全本。

(219) 印明→「印明（左傍書「ク相」）」仏全本。

今此等→「此等」仏全本。

浄→「淨」大正蔵、仏全本。

尓→「爾」大正蔵、仏全本。

(220) 具縁品説五浄居竟→行番号222に「具縁品云」として引用をみる「偈文」参照。

浄→「淨」大正蔵、仏全本。

次云此天次南三佛頂云々→〔参考〕「於毫相之右、復畫三佛頂、初名廣大頂、次名極廣大、及無邊音聲」『大日経』巻第一・入漫荼羅具縁真言品第二之一（『大正蔵』18—七c）。

釈云、是第二院所攝等云々→『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1—一四四頁下）。

釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(221) 具縁品云、次於其北方、布列五浄居～各如其次第（行番号223）→『大日経』巻第一・入漫荼羅具縁真言品第二之一（『大正蔵』18—七c）。

(222) 北→「此」仏全本。

布列五浄居→〔参考〕「布列淨居衆」『大日経』（『大正蔵』18—七c）。

浄→「淨」大正蔵、仏全本。

与→「與」大正蔵、仏全本。

(223)

(224) 釈云、次於東方最近北邊布邊布列五浄居衆～是第二院攝非此中所明也（行番号228）→『義釈』巻第四・入漫荼羅具縁真言品第二之二（『続天台』密教1—一四四頁下）。

釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。

最近→「最（傍書「寂原本」）近」仏全本。

浄→「淨」大正蔵、仏全本。

(225)

(226)

(227) 過此以已→「過此已上」大正蔵、「過此以上」仏全本、長福寺本。〔参考〕「過此已（傍書「已㋑以」）上」『義釈』（『続天台』密教1—一四四頁下）。

浄→「淨」大正蔵、仏全本。

(228)

(229) 秘密品云、浄境界之行～畫之如法則（行番号231）→『大日経』巻第五・秘密漫荼羅品第十一（『大正蔵』18—三五a）。

(230) 浄→「淨」大正蔵、仏全本。

五浄居→〔参考〕「淨居天」『大日経』（『大正蔵』18—三五a）。

諸印明→「諸印相」大正蔵、仏全本。〔参考〕「諸印相」『大日経』（『大正蔵』18—三五a）。

聴→「聽」大正蔵、仏全本、長福寺本。

(231)

(232) 釈云、次説浄居天印～或与願等皆得（行番号237）→『義釈』巻第十二・秘密漫荼羅品第十一之餘（『続天台』密教1—五四〇頁下～五四一頁上）。

第七巻 引用典籍類 一覧
（算用数字は翻刻文の行番号を示す）

意云：122、
解云：128、
検図位：123、
玄法寺儀軌：217、
禅門云：170、
大日経
　具縁品云：19、76、130、149、171、186、197、221、
　按具縁品云：121、
　彼（具縁）品説：173、
　又（具縁品）云：122、
　具縁品説：220、
（真言）蔵品云：41、
　転字品云：34、
　秘密品云：11、71、95、137、155、188、208、229、
　彼（秘密品）云：174、
大日経義釈
（具縁品）釈云：23、77、125、133、152、171、201、220、224、
（具縁品釈）云：186、
（真言蔵品）釈云：42、
（真言）蔵品釈云：79、98、159、
（転字品）釈云：37、
（秘密品）釈云：15、72、96、139、156、174、188、209、232、
　密印品釈云：175、
　所伝図：47、176、
私案：176、187、
（私）案：217、
私按：173、
私云：121、170、207、217、

『諸説不同記』釈迦院 三摩耶形　比較（一覧）

	観智院本	大正蔵本	仏全本	長福寺本
大転輪仏頂				
光聚仏頂				
無量聲仏頂				
如来悲			（無）	

	観智院本	大正蔵本	仏全本	長福寺本
釈迦牟尼				
虚空蔵菩薩				
観自在菩薩				
無能勝金剛				
無能勝妃				
一切如来宝				
如来毫相				

釈→「釋」大正蔵、仏全本、長福寺本。
浄→「淨」大正蔵、仏全本。
禅→「禪」大正蔵、仏全本、長福寺本。
為→「爲」大正蔵、仏全本。
（233）浄為→「淨爲」大正蔵、仏全本。
（234）裏→〔補足〕「裏 ウチ」『類聚名義抄』法中一三七。
以頭指頭手也→「以頭指指頰也」大正蔵、仏全本。〔参考〕「以頭指指頰（頰㋑㋺㋩頭）」『義釈』（『続天台』密教1―五四〇頁下）。
无→「無」大正蔵。〔参考〕「無」『義釈』（『続天台』密教1―五四〇頁下）。
右以得也、妙好義也→「左以得也、妙好義也」大正蔵、「右亦得也妙好義也」仏全本、長福寺本。〔参考〕「右亦得（㋑㋥㋭㋬也、妙好義也）」『義釈』（『続天台』密教1―五四〇頁下）。
（235）令奇向上→「令三指向上」大正蔵、仏全本、「令三奇向上」長福寺本。〔参考〕「令三奇向上」『義釈』（『続天台』密教1―五四〇頁下）。
得也→〔参考〕「得（㋑㋥㋭㋬也）」『義釈』（『続天台』密教1―五四〇頁下）。

（３オ）

（２ウ）

（２オ）

（１ウ）

（１オ）

（表紙裏）

（表紙）

(11才)

(9才)

(10才)

(8才)

(10才)

(8才)

(9才)

(7才)

（11ウ）

（12オ）

（12ウ）

（13オ）

（13ウ）

（14オ）

（14ウ）

（15オ）